

- 問1 1990年から2018年にかけて、日本やアメリカの二酸化炭素排出総量が増加しているにもかかわらず、世界全体に占める両国の排出割合が減少した背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 中国やインドといった新興国の経済発展が目覚ましく、それらの国々の排出量の伸びが日本やアメリカを大きく上回ったため。 | 2. 世界全体の人口が減少したことでエネルギー消費が抑制され、日本やアメリカの排出割合だけが特異的に低下したため。 | 3. 日本とアメリカが全ての化石燃料の使用を廃止し、再生可能エネルギーへの完全な転換を達成したため。 | 4. 欧州諸国における二酸化炭素の排出量が、日本やアメリカの増加分を補うほど劇的に減少したため。 |
|--|---|--|--|
- 問2 ある地域の統計資料において、月平均気温が年間を通して30度前後で一定しており、なおかつ各月の降水量が200mmから300mmを超える非常に多い数値を示している場合、その地域の自然環境や人々の生活の説明として正しいものはどれですか。 (2022年 福島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|-------------------------------------|-------------------------------|---------------------------------|
| 1. 樹木が育たないため、丈の長い草が広がる草原（サバナ）を利用して牧畜を行う | 2. 乾季に備えて、地下に「カナート」と呼ばれる水路を築いて農業を行う | 3. 多種多様な常緑広葉樹が密生する熱帯雨林が広がっている | 4. わずかな夏季にのみ地表の氷が溶け、苔（こけ）類が成長する |
|---|-------------------------------------|-------------------------------|---------------------------------|
- 問3 世界の茶の生産と輸出に関する統計において、2000年から2020年の間に中国の生産量は世界シェアの約19%から約45%へと急増しました。しかし、輸出量のシェアを見ると、中国の割合は生産量のシェアほど高くはありません。この理由として、中国の茶業におけるどのような背景が考えられますか。 (2026年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|-----------------------|---------------------------------|
| 1. 近隣諸国からの安価な茶の輸入が増え、自国製品の競争力が低下したため | 2. 生産した茶の大部分を工業用の原料として保管しているため | 3. 自国内での茶の消費量が非常に多いため | 4. 輸向向けの品質管理基準が厳格化され、出荷が制限されたため |
|--------------------------------------|--------------------------------|-----------------------|---------------------------------|
- 問4 ある地域の気候統計において、気温が温暖である一方で、夏季の降水量が極端に少なく、その時期にぶどうやオリーブの栽培が行われている場合、その地域の農業的特徴について述べた文として正しいものはどれですか。 (2026年 福島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 乾燥に強い樹木作物と、冬の降水を利用した冬小麦の栽培を組み合わせている。 | 2. 一年中平均して降る雨を利用し、酪農と食料作物の栽培を組み合わせている。 | 3. 季節風による夏季の多雨を利用し、二期作による稲作を大規模に行っている。 | 4. 広大な土地に大型機械を導入し、春に種をまく春小麦の栽培を主に行っている。 |
|---|--|--|---|
- 問5 南北両半球の中緯度帯、例えば南緯40度から60度付近の地域などにおいて、一年中絶えず西から東に向かって吹いている恒常的な風を何というか。 (2026年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|--------|---------|
| 1. 季節風 | 2. 偏西風 | 3. 貿易風 | 4. 上昇気流 |
|--------|--------|--------|---------|
- 問6 2014年における世界の二酸化炭素排出量の国別割合を調査した統計において、排出量が世界第1位（全体の28.2%）の国と、第2位（16.0%）の国の組み合わせとして正しいものを次から選びなさい。 (2019年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------|-------------------|-----------------------|------------------------|
| 1. 第1位：中国、第2位：アメリカ合衆国 | 2. 第1位：中国、第2位：インド | 3. 第1位：アメリカ合衆国、第2位：中国 | 4. 第1位：アメリカ合衆国、第2位：ロシア |
|-----------------------|-------------------|-----------------------|------------------------|
- 問7 世界の気候の法則性に基づき、南アメリカ大陸の各地における平均気温の変化について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2018年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 平均気温の決まり方は時差と密接に関係しているため、同じ経度にある地点であれば、赤道からの距離に関わらず気温は一定である。 | 2. 緯度が高くなるほど太陽からの受熱量が増加するため、南アメリカ大陸の南端部は赤道付近よりも年間を通じて高温になる。 | 3. 標高が同程度の低地であれば、赤道に近い地点から南の端に近い地域へ移動するにつれて、一般に平均気温は低下していく。 | 4. 南アメリカ大陸においては、地形の起伏が激しいため、緯度の違いが気温に与える影響はほとんど無視できるほど小さい。 |
|---|---|---|--|
- 問8 世界のエネルギー消費に関する傾向を説明した文として、北アメリカとアフリカの状況を比較した記述として最も適切なものはどれですか。 (2021年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 人口が急増しているアフリカなどの地域は、社会全体のエネルギー総消費量とともに、一人当たりの消費量も北アメリカを上回っている。 | 2. エネルギー消費の効率化が進んでいる北アメリカなどの先進地域では、アフリカなどの発展途上地域よりも一人当たりの消費量が少なくなっている。 | 3. エネルギー資源を豊富に算出する地域ほど、その地域内での一人当たりのエネルギー消費量が多くなるため、アフリカの方が北アメリカより数値が高い。 | 4. 一般に産業化が進んだ地域ほど生活水準が高く、生産活動も盛んなため、一人当たりのエネルギー消費量は多くなる傾向がある。 |
|---|--|--|---|
- 問9 ある地域の気候統計において、1月・2月の平均気温がマイナス40度近くまで低下する一方、7月には15度程度まで上昇し、年間を通じて降水量が非常に少ないというデータが得られました。この地域の特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2024年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 夏の期間のみ地表の氷が解け、コケ類や地衣類が生育するが、樹木はほとんど育たない。 | 2. 一年を通じて高温多湿であり、スコールと呼ばれる激しい雨が降るため稲作が盛んである。 | 3. 暖流と偏西風の影響を強く受けるため、高緯度のわりに冬の寒さは穏やかで気温差が小さい。 | 4. 短い夏に気温が上がるため針葉樹林が広がり、木材の伐採や加工が重要な産業となっている。 |
|---|--|---|---|
- 問10 食品のパッケージに、円の中にアラビア文字や英字をあしらった独自のマークが付されていることがあります。このマークが世界各地で普及している背景について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。 (2020年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 特定の地域で生産された農産物の名称を法的財産として保護し、模倣品を排除して生産者の利益を守るため | 2. イスラム教の教義に則った安全な食品であることを一目で判別できるようにし、ムスリムの多様な食生活を支えるため | 3. 先進国の消費者が途上国の生産者に対して正当な対価を支払うことで、持続可能な国際貿易を実現するため | 4. ユネスコ無形文化遺産に登録された伝統的な調理法が守られていることを証明し、観光資源として活用するため |
|---|--|---|---|
- 問11 北緯および南緯30度から60度付近の中緯度帯において、一年を通じて西から東に向かって絶えず吹いている恒常風の名称として、正しいものを次のうちから選びなさい。 (2016年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|---------------|--------|
| 1. 貿易風 | 2. 偏西風 | 3. 季節風（モンスーン） | 4. 極東風 |
|--------|--------|---------------|--------|
- 問12 世界の農産物生産統計において、ブラジル（約1億1,427万トン）とアメリカ合衆国（約9,679万トン）の2か国が世界全体の生産量の多くを占め、3位の中国（約1,572万トン）を大きく引き離している品目として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|------|-------|------|-------|
| 1. 米 | 2. 小麦 | 3. 茶 | 4. 大豆 |
|------|-------|------|-------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 中国やインドといった新興国の経済発展が目覚ましく、それらの国々の排出量の伸びが日本やアメリカを大きく上回ったため。	世界全体の二酸化炭素排出の構造は、1990年以降大きく変化しました。日本やアメリカも排出量を増やしてはいますが、それ以上に「世界の工場」として急速な成長を遂げた中国や、人口増加と工業化が進むインドなどの排出増加ペースが極めて速かったことが要因です。その結果、分母となる世界全体の排出量が膨らみ、相対的に日本やアメリカの「割合」は減少するという統計的特徴が生まれました。
問2	答え 3 多種多様な常緑広葉樹が密生する熱帯雨林が広がっている	気温が常が高く、毎月200mm以上の多雨となる環境は、植物の生育に非常に適しています。このような地域では、一年中緑の葉を蓄えた背の高い木々が密集する「熱帯雨林（セルバやジャングルなど）」が形成されます。他の選択肢は、乾燥帯や寒冷な気候の特徴を述べたものです。
問3	答え 3 自国内での茶の消費量が非常に多いため	中国は世界最大の茶の生産国であり、20年間でそのシェアを大幅に拡大させました。しかし、中国国内には伝統的な茶文化が深く根付いており、膨大な人口による国内消費が極めて多いため、生産された茶の多くが国内で消費されます。その結果、ケニアやスリランカといった輸出依存度の高い国々と比較して、生産量に対する輸出量の割合が低くなるという特徴があります。
問4	答え 1 乾燥に強い樹木作物と、冬の降水を利用した冬小麦の栽培を組み合わせている。	地中海性気候下の農業は、夏季の乾燥に耐えられるオリーブやぶどうなどの樹木作物と、比較的雨の多い冬季に成長させる小麦の栽培を組み合わせることが一般的です。酪農を中心とするのは西岸海洋性気候で見られる混合農業の特徴であり、季節風を利用するのはアジアなどの温帯湿潤気候や熱帯モンスーン気候の特徴です。
問5	答え 2 偏西風	地球の中緯度帯の上空では、一年を通じて西から東へと向かう強い風が吹いています。これを偏西風と呼びます。低緯度から高緯度へ向かう空気が、地球の自転の影響を受けることで西寄りの風となります。日本が位置する北半球だけでなく、南半球の中緯度帯においても同様に吹いています。
問6	答え 1 第1位：中国、第2位：アメリカ合衆国	二酸化炭素の排出量は、国の経済活動の規模や工業化の進展と密接に関係しています。21世紀に入り急速な経済成長を遂げた中国が、石炭消費の多さなどから世界最大の排出国となっており、これに世界最大の経済規模を持つアメリカ合衆国が続いています。これら2カ国だけで世界全体の排出量の約4割以上を占めているのが現状です。
問7	答え 3 標高が同程度の低地であれば、赤道に近い地点から南の端に近い地域へ移動するにつれて、一般に平均気温は低下していく。	緯度と気温には密接な関係があり、赤道から北極や南極（高緯度）に向かうほど平均気温が低くなるのが原則です。南アメリカ大陸においても、赤道直下の低地にある都市と、南緯50度付近の寒冷な地域を比較すると、緯度の高い後者の方が太陽エネルギーの受熱量が少ないため、気温が低くなります。時差（経度）や地形の影響よりも、緯度による受熱量の差が気温の基本構造を決定します。
問8	答え 4 一般に産業化が進んだ地域ほど生活水準が高く、生産活動も盛んなため、一人当たりのエネルギー消費量は多くなる傾向がある。	エネルギーの消費量は、単なる人口の多寡ではなく、その地域の経済発展の度合いや産業構造と密接に関わっています。2017年の統計でも、工業化が進み、自動車や電化製品が広く普及している北アメリカやヨーロッパにおいて、一人当たりのエネルギー消費量が高い値を示しています。対照的に、開発の途上にあるアフリカなどの地域では、人口一人当たりで換算すると消費量は依然として低い水準にあり、地域間の経済的な格差がエネルギー消費の差となって現れています。
問9	答え 4 短い夏に気温が上がるため針葉樹林が広がり、木材の伐採や加工が重要な産業となっている。	提示された数値は、冬の極寒と夏の上昇、そして乾燥した特徴を持つ亜寒帯（冷帯）の典型的なデータです。この気候下では、夏に気温が10度を超える月があるため、樹木の生育が可能となり、タイガと呼ばれる針葉樹林が形成されます。一方、夏でも気温が上がらず樹木が育たないのは寒帯のツンドラ気候であり、偏西風や暖流の影響を受けるのは温帯の西岸海洋性気候です。
問10	答え 2 イスラム教の教義に則った安全な食品であることを一目で判別できるようにし、ムスリムの多様な食生活を支えるため	グローバル化によって世界中で多種多様な加工食品が流通する中、イスラム教徒は原材料に禁じられているものが含まれていないかを厳格に確認する必要があります。ハラールマークが付されることで、消費者は一目で自分の信仰に適した食品であるかを判断でき、安心して食事を選択できるようになります。これは多文化共生の観点からも重要な役割を果たしています。
問11	答え 2 偏西風	中緯度帯の低気圧や高気圧、雲などの移動に大きな影響を与えるこの風は偏西風と呼ばれます。地球の自転の影響を受け、一年中ほぼ一定の方向に吹く「恒常風」の一つです。赤道付近に向かって吹く風は貿易風、極地付近から吹く風は極東風、季節によって吹く向きが逆になる風は季節風（モンスーン）であり、それぞれ発生する仕組みや地域が異なります。
問12	答え 4 大豆	南北アメリカ大陸に位置するブラジルとアメリカ合衆国は、世界的な大豆の主要生産国です。これらの国々では広大な土地を利用した大規模な農業が行われており、生産量は他の国々と比較して圧倒的に多いのが特徴です。米や小麦は中国やインドなどのアジア地域でも非常に多く生産されているため、この統計データのような極端な偏りは見られません。